

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 徳之島地区自然保護協議会

記入者名： 徳之島地区自然保護協議会 米山 太平

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在徳之島全体の人口：23,497人(2015年)、将来：20,489人（2030年）→17,176人（2045年）
- 徳之島町の総合計画に示された将来目標と環境目標 「11,770人（2012年）→10,000人（2021年）」 「自然環境生態系の保護保全・循環型社会の推進」
- 天城町の総合計画の将来目標と環境目標 「人口の6100人での維持」「自然環境に配慮し、生活基盤の整備を図る」
- 伊仙町の総合計画の将来目標と環境目標 「合計特殊出生率 2.81 を維持もしくは向上」 「徳之島における自然や観光地の利用圧を調整」

②具体的な取組

- 上質な時間を過ごす旅の開発：富裕層をターゲットに絞った体験コンテンツの開発（行政、観光連盟、集落、協議会）
- 上質な時間を過ごす旅の開発：富裕層をターゲットに絞った宿泊施設に向けたリフォーム（行政、観光、集落）
- クロウサギブランドの開発：クロウサギタンカン、クロウサギグッズの開発（行政、JA、協議会）
- ブランド品を使った資金募集：ふるさと納税、クラファン、募金活動による財源構築（行政、協議会）
- 第三者認証制度の普及：環境に配慮した農法の普及啓発（行政、JA、農家）

①ありたい未来

- 世界自然遺産 徳之島
世界自然遺産徳之島の自然環境を求め、多くの観光客が訪れている。他の観光地とは違い、島らしいゆっくりとした時間を求める客層が多く、その客層に応じた観光コンテンツが充実している。
「人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅の提供」を合言葉に、島では地域住民による希少種の保護活動や文化の継承活動が盛んに行われており、地域が一体となった観光施策が実施されている。
ツアーのプログラムには、農業体験や文化体験、希少野生動物観察など地域の資源を活かした持続可能なツアーが実施されているほか、リピーターやファン等の地域応援者も多く、ふるさと納税などの寄附金も年々増加して持続可能な地域づくりの先進地となっている。
- 新ブランド“アマミノクロウサギ”
アマミノクロウサギの存在を誰もが知っており、ミッフィーに続く世界中から愛されるウサギキャラとなっている。
アマミノクロウサギが訪れる農園で育ったタンカンやマンゴー、コーヒーは国内外からの注文も多く、生産者になろうと全国からの移住者が年々増加している。
また、エコファーマーやGAPなどの第三者認証制度を生かした生産管理が行われており、生物や生態系に配慮した農法が主流となっ

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
				(2020年度末)	(2020年度末)	
環境	希少種生息状況	アマミノクロウサギ保護活動				回
	希少種生息状況	ロードキル防止啓発活動				回
	希少種生息環境	定期清掃回数				回
		公園パトロール数				回
経済	財源が充実する	メディア掲載回数				
		食害低減の保護柵設置				
	地域外から稼いでくる	体験コンテンツ数			—	
		観光連盟サイト閲覧数				
社会	市民の関心が高まる・認知度が高まる	クロウサギ関連商品数	0	1	1	品
		環境教育取組み学校数	3	6		件
		K-GAP取得説明会				戸
		エコツアーガイド講習回数				人
		移住・定住相談会				回

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
				(2020年度末)	2030-2050年度		
環境	希少種生息状況	アマミノクロウサギ生息メッシュ	90	92	2030	3,000	地点
	希少種生息状況	アマミノクロウサギ 滅失数	29		2030	30	匹
	希少種生息環境	国立公園面積数			2030	3,600,000	ha
	希少種生息環境	盗掘・盗採被害件数			2030	90	ha
経済		自然分野ふるさと納税額					
		農作物被害額（クロウサギ）					
		域外からの観光客数					
		徳之島ファン・応援者数					
社会		クロウサギ関連商品販売額					
		環境保全意識者数					
		K-GAP取得農家数					
		エコツアーガイド数					
		現役世代の人口割合					

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

世界自然遺産の価値を継承していくには、アマミノクロウサギをはじめとする希少種の保護活動を継続して行っていく必要があり、徳之島に暮らす人々、この地域を訪れる人々は責務を背負っている。
自然保護活動や公園清掃等の環境関連活動を行うことで、地域の関心の高まりが予想され、アマミノクロウサギの個体数増加が期待されるほか、盗掘・盗採の被害低減も期待される。（環境）
また、自然・文化を活かした体験型コンテンツを充実させることで、域外からの来島者が増え、都市部からの資金や人口の流入に繋げていく。（経済）
島内で生産される農産物のブランド化が進み、第三者認証制度の説明会が行われ、エコファーマーやGAP制度を活かした安心・安全な作物が生産されている。（社会）
自然や文化、人の暮らしを融合した健康・長寿の島として脚光を浴びている。（全体）

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください